

2019 年度 研究所事業報告書

研究所名	人文科学研究所
------	---------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5 年)および 2019 年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうできるだけわかりやすく記述してください。なお、2019 年度に採択を受けた研究所重点プロジェクトの実績報告は、書式 B に記述のうえ提出してください。

人文科学研究所は 2019 年度において 3 つの重点プロジェクト以外に、3 つの研究助成プログラムを組織し、人文科学・社会科学の深化と刷新を試みた。各重点プロジェクトは 5 年において、それぞれ(1)「史料の収集・蓄積を重視した日本近代社会・思想史研究」、(2)「現代社会と人間を解読するための哲学、倫理学、宗教学、社会学分野の研究者の協業による斬新な視角の模索」、(3)「グローバルなモビリティの渦中にあるアジア地域が直面する諸課題に関する考察と実践的な対応の模索」を強く意識しながら研究を行っている。「史料の収集・蓄積を重視した日本近代社会・思想史研究」においては、当研究所内で 50 年余りの歴史を有する近代日本思想史研究会が中心となり、中期的テーマを設定し研究成果を蓄積している。「現代社会と人間を解読するための哲学、倫理学、宗教学、社会学分野の研究者の協業による斬新な視角の模索」においては、「間文化現象学研究」と「暴力からの人間存在の回復」の 2 つのユニットによって研究を推進し、人間科学に関する学際的な研究を積極的に蓄積している。「グローバルなモビリティの渦中にあるアジア地域が直面する諸課題に関する考察と実践的な対応の模索」では、「政治・経済」的な側面および「観光・地理・文化」的側面からのアプローチを行い、グローバル化に直面するアジア地域を多方面から研究している。

研究成果の発信と社会貢献

上記の長期目標をふまえて 2019 年度においては、以下のような研究成果の発信と社会貢献を具体的に行った。

まず①「敗戦と戦後政治体制構想」(代表:小関素明)では計 4 回の研究会を開催し、それらの成果を含む小特集「あたらしい日本近代史研究の模索」(『立命館大学人文科学研究所紀要』122 号)をまとめた。②「間文化現象学と暴力からの人間存在の回復」(代表:加國尚志)では、2 つの講演会と 2 つのワークショップを行うことによって、芸術と人間存在の関係についての考察を深め、国内外の研究者とネットワークを形成することができた。また『立命館大学人文科学研究所紀要』120 号において、3 つの小特集(「間文化性と宗教」「デリダ―歴史の思考と言語の問い」「暴力からの人間存在の回復」研究会ワークショップ―ジェンダーと身体)を組み刊行した。③「グローバル化とアジアの地域」(代表:遠藤英樹)では、「グローバル化のなかのアジア」をテーマとした研究会を開催した。またマレーシアから 2 名の研究者を招聘し国際シンポジウム「マレーシア・オン・ツアー―マレーシアと観光を考える」を、デンマークからモビリティ研究の第一人者であるロスキレ大学に所属するヨナス・ラースン氏を招聘し国際シンポジウム「移動論的パラダイムの新地平」を開催した。さらに『立命館大学人文科学研究所紀要』121 号において小特集『「ダークツーリズム」研究の拡張―『ポリフォニック・ツーリズム』に向けて』、123 号において小特集『「グローバル化のなかの東アジア」研究会成果報告』をまとめ刊行した。他に様々な国際シンポジウム・ワークショップ等を企画していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況のもとでやむなく延期となった。

若手研究者の支援

人文科学研究所では本年度も、読書会、研究会・ワークショップにおける発表、調査・フィールドワークなど、多様な機会をとらえて、若手研究者の育成をはかってきた。具体的には若手研究者自身がワークショップをコーディネートできる機会を提供したり、若手研究者育成を目的に国内外の最新業績を批判的に検討する読書会を開催したりした。さらに博士課程後期課程に在学する大学院生に対しても、積極的に研究会・ワークショップにおける発表機会を提供するとともに、現地調査・フィールドワークを実施した。これらの取組により若手研究者が高等教育機関に任用されるなど、その成果は着実に挙げられている。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況のもとで様々な制約はあったものの、2019 年度の研究活動においても所期の目的を順当に推進できたと言えよう。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2020年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
研究所長・センター長	遠藤 英樹	文学部	教授
運営委員	小関 素明	文学部	教授
	加國 尚志	文学部	教授
	加藤 雅俊	産業社会学部	准教授
	川村 仁子	国際関係学部	准教授
	神田 孝治	文学部	教授
	河野 恵一	法学部	教授
	白戸 圭一	国際関係学部	教授
	谷 徹	文学部	教授
	藤巻 正己	文学部	特任教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	亀井 大輔	文学部	准教授
	伊勢 俊彦	文学部	教授
	北尾 宏之	文学部	教授
	林 芳紀	文学部	准教授
	佐藤 愛	言語教育センター	講師
	日暮 雅夫	産業社会学部	教授
	櫻井 純理	産業社会学部	教授
	加藤 政洋	文学部	教授
	山本 理佳	文学部	准教授
	石崎 祥之	経営学部	教授
	羽谷 沙織	国際教育推進機構	准教授
	駒見 一善	国際教育推進機構	准教授
	De Antoni Andrea	国際関係学部	准教授
	轟 博志	APU アジア太平洋学部	教授
	四本 幸夫	APU アジア太平洋学部	教授
	栗谷 佳司	立命館アジア・日本研究機構	客員准教授
	勝村 誠	政策科学部	教授
	芳村 弘道	文学部	教授
	萩原 正樹	文学部	教授
	川村 仁子	国際関係学部	准教授
	中谷 義和	人文科学研究所	上席研究員
	松下 冽	国際関係学部	授業担当講師
	佐藤 誠	国際関係学部	名誉教授
	龍澤 邦彦	国際関係学部	特任教授
	南川 文里	国際関係学部	教授

	本名 純	国際関係学部	教授	
	江口 友朗	産業社会学部	教授	
学内の若手研究者	① 専門研究員・研究員	吉田 武弘	衣笠総合研究機構	専門研究員、非常勤講師
		横田 祐美子	衣笠総合研究機構	専門研究員
		酒井 麻依子	文学部	初任研究員
		松田 智宏	文学部	初任研究員
		靳 春雨	立命館大学アジア・日本研究機構	専門研究員
	② リサーチアシスタント			
	③ 大学院生	山口 一樹	文学研究科	博士課程後期課程
		斉藤 仁志	文学研究科	博士課程後期課程
		宮下 祥子	社会学研究科	博士課程後期課程
		伊故海 貴則	文学研究科	学振特別研究員 DC
		十河 和貴	文学研究科	学振特別研究員 DC
		路 劍虹	文学研究科	博士課程後期課程
		古 文英	文学研究科	博士課程後期課程
		海野 大池	文学研究科	博士課程後期課程
		田中 将太	文学研究科	学振特別研究員 DC
		福井 優	文学研究科	博士課程後期課程
		吉水 希枝	文学研究科	博士課程後期課程
		中井 悠貴	文学研究科	博士課程後期課程
		落合 優翼	文学研究科	博士課程前期課程
		狩野 晃一	文学研究科	博士課程前期課程
		市川 博規	文学研究科	博士課程後期課程
		有村 直輝	文学研究科	博士課程後期課程
		柳川 耕平	文学研究科	博士課程後期課程
		下村 晃平	社会学研究科	博士課程後期課程
		一井 崇	社会学研究科	博士課程後期課程
		森田 耕平	文学研究科	博士課程後期課程
		前田 一馬	文学研究科	博士課程後期課程
		HUANG Rongquian	文学研究科	博士課程前期課程
An Geluma		文学研究科	博士課程前期課程	
GUO Yang		文学研究科	博士課程前期課程	
田中 京		文学研究科	博士課程後期課程	
川口 由香		国際関係研究科	博士課程後期課程	
五十嵐 美華	国際関係研究科	博士課程後期課程		
劉 可	国際関係研究科	博士課程後期課程		
足立 弦彦	社会学研究科	博士課程後期課程		
SHIN Jaesol	社会学研究科	博士課程前期課程		
④ 日本学術振興会特別研究員 (PD・RPD)				

その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研究生、研修生等)	梶居 佳広	教養教育センター	非常勤講師
	猪原 透	文学部	授業担当講師
	眞杉 侑里	文学部	授業担当講師
	丸山 彩	文学部	授業担当講師
	青柳 雅文	文学部	非常勤講師 客員協力研究員
	小田切 建太郎	文学部	授業担当講師、学振特別研究員 PD(京都大学)
	神田 大輔	文学部	非常勤講師
	小林 琢自	文学部	非常勤講師
	鈴木 崇志	文学部	授業担当講師
	田邊 正俊	文学部	非常勤講師
	Michel Dalissier	文学部	客員教員(准教授)
	西口 清勝	経済学部	非常勤講師
	松下 冽	国際関係学部	授業担当講師
	谷崎 友紀	文学研究科	研究生
	富 嘉吟	文学部	授業担当講師
	井手上 和代	国際関係学部	嘱託講師
	井澤 友美	人文科学研究所	客員協力研究員
客員協力研究員	赤澤 史朗	立命館大学	名誉教授
	今西 一	小樽商科大学	名誉教授
	佐藤 太久磨	漢陽大学校国際文化大学日本学科	助教授
	颯原 善徳	人文科学研究所	客員研究員
	島田 龍	人文科学研究所	客員研究員
	西田 彰一	京都産業大学	日本学術振興会特別研究員
	寺澤 優	人文科学研究所	客員研究員
	林 尚之	大阪府立大学	非常勤講師
	中谷 義和	人文科学研究所	上席研究員
	韓 準祐	多摩大学	専任講師
	安田 峰俊	ファンフィクション作家	
	二村 洋輔	椛山女学園大学	非常勤講師
	山田 香織	学校法人穴吹学園	職員
	麻生 将	人文科学研究所	客員研究員
	その他の学外者	藤野 真挙	東儀大学校
赤阪 辰太郎		大阪大学大学院人間科学研究科	博士課程後期課程
浅沼 光樹		龍谷大学	非常勤講師
池田 裕輔		釧路工業高等専門学校	専任講師

	川崎 唯史	熊本大学	助教
	黒岡 佳柁	福州大学(中華人民共和国)	専任教員
	佐藤 勇一	福井工業高等専門学校	准教授
	山本 勇次	大阪国際大学	名誉教授
	瀬川 真平	大阪学院大学	教授
	橋本 和也	京都文教大学	名誉教授
	石井 香世子	立教大学	教授
	古村 学	宇都宮大学	准教授
	大野 哲也	桃山学院大学	教授
	堀野 正人	奈良県立大学	教授
	寺岡 伸悟	奈良女子大学	教授
	薬師寺 浩之	奈良県立大学	准教授
	間中 光	追手門学院大学	専任講師
	Daniel Milne	京都大学	講師
	長尾 伸一	名古屋大学	名誉教授
	西本 和見	中京大学経済学部	准教授
	田中 啓太	尚見学園大学	専任講師
安藤 順彦	名古屋大学経済学研究科	博士課程後期課程	
研究所・センター構成員	計 125 名 (うち学内の若手研究者 計 35 名)		

Ⅲ. 研究業績（公開項目） ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。（2020年3月31日時点）
また、書式Bの研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	西田彰一	躍動する「国体」 笈克彦の思想と活動	単著	2020年2月	ミネルヴァ書房		
2	林尚之	近代のための君主制—立憲主義・国体・「社会」	共著	2019年11月	大阪公立大学共同出版会	住友陽文、前川真行、梅田直美	pp. 93-125
3	谷徹	〈言葉〉——日独文化研究所シンポジウム——	共著	2019年10月	公益財団法人日独文化研究所／こぶし書房	公益財団法人日独文化研究所（編）	pp. 43-60, 183-194
4	谷徹	The Oxford Handbook of JAPANESE PHILOSOPHY	共著	2019年9月	Oxford University Press	Bret W. Davis (ed.)	pp. 631-648
5	伊勢俊彦	因果・動物・所有：一ノ瀬哲学をめぐる対話	共著	2020年1月	武蔵野大学出版会	宮園健吾・大谷弘・乗立雄輝（編）	pp. 311-332
6	林芳紀	いまを生きるための倫理学	共著	2019年11月	丸善出版	盛永審一郎・松島哲久・小出泰士（編）	pp. 162-169
7	横田祐美子	世界の終わりの後で：黙示録的理性批判	共訳	2020年3月	法政大学出版局	ミカエル・フッセル（著） 西山雄二、伊藤潤一郎、伊藤美恵子、横田祐美子（訳）	pp. 89-128, 341-348
8	横田祐美子	脱ぎ去りの思考——バタイユにおける思考のエロティシズム	単著	2020年3月	人文書院		
9	酒井麻依子	メルロ=ポンティ 現れる他者/消える他者：「子どもの心理学・教育学」講義から	単著	2020年3月	晃洋書房		
10	松田智裕	弁証法、戦争、解説：前期デリダ思想の展開史 = Dialectique, guerre, déchiffrement : le développement de la pensée de Jacques Derrida	単著	2020年3月	法政大学出版局		
11	赤阪辰太郎 池田裕輔 川崎唯史	マルク・リシール現象学入門 サシャ・カールソンとの対話から	共訳	2020年2月	ナカニシヤ出版	マルク・リシール サシャ・カールソン（著）	pp. 283-300, 334-345 (赤阪辰太郎) pp. 61-85 (池田裕輔) pp. 301-313, 345-354 (川崎唯史)
12	池田裕輔	Wohnen als Weltverhältnis. Eugen Fink über den Menschen und die Physis	共著	2019年8月	Karl Alber	Giovanni Jan Guibilato (et. al.)	pp. 15-41
13	黒岡佳征	ハイデガーにおける共存在の問題と展開——哲学・有限性・共同性	単著	2020年2月	晃洋書房		
14	遠藤英樹	人をつなげる観光戦略——人づくり・地域づくりの理論と実践	分担執筆	2019年4月	ナカニシヤ出版	橋本和也 [編著]	pp. 14-31
15	遠藤英樹	グローバル社会の変容——スコット・ラッシュュ来日講演を経て	分担執筆	2020年3月	晃洋書房	中西真知子・鳥越信吾 [編著]	pp. 152-170
16	加藤政洋	大阪——都市の記憶を掘り起こす	単著	2019年4月	筑摩書房		
17	加藤政洋	酒場の京都学	単著	2020年1月	ミネルヴァ書房		

18	Andrea De Antoni	Understanding Japanese Society	分担執筆	2019年7月	Routledge	Joy Hendry [編著]	pp. 182-205
19	Andrea De Antoni	Spirits and Animism in Contemporary Japan: The Invisible Empire	分担執筆	2019年5月	Bloomsbury	Fabio Rambelli [編著]	pp. 109-125
20	橋本和也	人をつなげる観光戦略——人づくり・地域づくりの理論と実践	分担執筆	2019年4月	ナカニシヤ出版	橋本和也 [編著]	pp. 1-12 pp. 168-188
21	粟谷佳司	表現文化の社会学入門	編著書	2019年9月	ミネルヴァ書房	太田健二	
22	萩原正樹	宋代文學傳播原論—宋代の文學はいかに伝わったか—	共著	2019年12月	朋友書店	王兆鵬著 松尾肇子・池田智幸と監訳	pp. 1-609
23	井澤友美	「バリのヒンドゥー哲学 (トリ・ヒタ・カラナ)」『東南アジア文化事典』	共著	2019年11月	丸善出版	信田敏宏他編	pp. 574-575.
24	松下洸	『ラテンアメリカ研究入門——<抵抗するグローバル・サウス>のアジェンダ』	単著	2019年12月	法律文化社		pp. 1-230.
25	白戸圭一	アフリカを見る アフリカから見る	単著	2019年8月	筑摩書房		
26	長尾伸一	現代経済学史の射程:パラダイムとウェルビーイング	共著	2019年4月	ミネルヴァ書房	梅澤直樹・平野嘉孝・松嶋敦茂	pp. 1-352
27	長尾伸一	知識経済の形成:産業革命から情報化社会まで	共著	2019年9月	名古屋大学出版会	伊藤庄一	pp. 1-410
28	日暮雅夫	理性の病理:批判理論の歴史と現在	共著	2019年5月	法政大学出版局	出口剛司・宮本真也・片上平二郎・長澤麻子 (共訳) アクセル・ホネット (著)	pp. 5-28, pp. 68-82, pp. 253-270
29	日暮雅夫	学生と市民のための社会文化研究ハンドブック	単著	2020年1月	晃洋書房		pp. 110-111

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	吉田武弘	貴衆両院関係の出発—議会制度導入過程における二院制論の展開	単著	2019年	ヒストリア 227		pp. 166-193	有
2	吉田武弘	大正期における政党政治と貴衆両院関係の展開	単著	2019年	歴史の理論と教育 153		pp. 3-18	有
3	Yoshida Takehiro	BOOK REVIEW <i>Empire and Constitution: Why could the Second Sino-Japanese War not be prevented?</i> BANNO Junji, Tokyo: Chikuma Shobo, 2017, <i>Journal of the Asia-Japan Research Institute of Ritsumeikan University</i> vol. 1	単著	2019年	<i>Journal of the Asia-Japan Research Institute of Ritsumeikan University</i> vol. 1		pp. 98-105	有
4	吉田武弘	書評:原口大輔著『貴族院議長・徳川家達と明治立憲制』	単著	2019年	ヒストリア 273		pp. 74-81	有
5	吉田武弘	書評 小路田泰直・田中希生編『明治維新とは何か』	単著	2019年	史創 9		pp. 78-91	有
6	齋藤仁志	第三次「国策」満州移民と熊本 (3)	単著	2019年	熊本近代史研究会会報 568		pp. 15-18.	有

7	齋藤仁志	第三次「国策」満州移民と熊本 (4)	単著	2019年	熊本近代史研究会会報 569		pp. 11-14。	有
8	齋藤仁志	第三次「国策」満州移民と熊本」(5)	単著	2019年	熊本近代史研究会会報 570		pp. 25-26。	有
9	齋藤仁志	第三次「国策」満州移民と熊本」(6)	単著	2019年	熊本近代史研究会会報 572		pp. 25-27。	有
10	山口一樹	元帥をめぐる一九二〇年代の陸軍—上原派の構想を通じて—	単著	2019年10月	日本史研究 686		pp. 1-25。	有
11	伊故海貴則	横井小楠における「議論」と世界認識—道理・武威・一致—	単著	2020年3月	明治維新史研究 18		pp. 1-20	有
12	十河和貴	十河和貴「文官總督制實施後の殖民地統治構造：以第五-七回臺灣總督府評議會為中心	単著	2020年3月	李福鐘編『跨域青年學者台湾與東亞近代史研究論集第四輯』、稲郷出版社		pp. 269-316	有
13	十河和貴	元老西園寺公望と「憲政の常道」—中川小十郎の活動を主軸として—	単著	2020年3月	立命館 史資料センター紀要 3		pp. 7-51	有
14	福井優	70年安保とベ平連—『週間アンボ』を中心に—	単著	2020年3月	立命館大学国際平和ミュージアム紀要 21		pp. 69-81	有
15	眞杉侑里	立命館出版部の組織構成に関する基礎的研究	単著	2020年3月	立命館 史資料センター紀要 3		pp. 53-94	有
16	猪原透	米田庄太郎の社会哲学—社会学の方法と理想主義—	単著	2019年	日本思想史学 51		pp. 136 - 153	有
17	丸山彩	日本軍政下のジャワにおいて歌われた歌—ジャカルタ近郊での調査を通して—	単著	2020年3月	次世代人文社会研究 16		pp. 297~311	有
18	西田彰一	筧克彦の思想と活動—国体論との関わりに注目して	単著	2019年	藤田大誠編『国家神道と国体論 宗教とナショナリズムの学際的研究』(弘文堂、2019年)		pp. 373—395	有
19	西田彰一	学制と明治時代の教育	単著	2019年	香川七海・福若真人・蒲生諒太編『教育原理』(七猫社)		pp. 68-70	有
20	西田彰一	南原繁と筧克彦	単著	2019年	南原繁研究会編『南原繁と憲法改定問題』(その2) (横濱大氣堂)		pp. 154-171	有
21	西田彰一	歴史教育における探究的な学習プログラムの開発—「観察」と「論証」に焦点を当てた理論的検討と実践の紹介—	共著	2020年3月	『立命館教職教育研究』7	蒲生諒太	pp. 33-44	有
22	西田彰一	古写真を利用した探究的な学習プログラム:道頓堀をフィールドとした歴史・地理教育の試行記録	共著	2020年2月	『同志社女子大学教職課程年報』3	蒲生諒太	pp. 56-68	有
23	西田彰一	筧克彦の神道理論とその形成過程	単著	2019年9月	『日本思想史学』51		pp. 100-117	有
24	西田彰一	奈良の志賀直哉	単著	2020年3月31日	2019NARA-EURASIA Institute's Report:3 「近世・近代の思想研究会」調査研究レポート		pp. 393 —401	有
25	西田彰一	観音院サロンにおける交流の諸相	単著	2020年3月31日	2019NARA-EURASIA Institute's Report:3 「近世・近代の思想研究会」調査研究レポート		pp. 23-34	有
26	西田彰一	特集 読めない本 亀井勝一郎『現代史の課題』(1957/1959年)(岩波現代文庫、2005年)	単著	2020年2月	EURO-NARASIA Q15		pp. 49	有
27	西田彰一	書評と紹介 岩田真美・桐原健真編『カミとホトケの幕末維新：交錯する宗教世界』	単著	2019年12月	宗教研究 93-3		pp. 574-579	有
28	西田彰一	追加情報—井上哲次郎	単著	2019年4月	日本歴史 851		pp. 92-94	有

29	頼原善徳	日本国憲法第九十八条第二項成立過程再考	単著	2020年2月	立命館大学人文科学研究紀要 122		pp. 5-48	有
30	島田龍	左川ちか年譜考	単著	2020年2月	立命館大学人文科学研究紀要 122		pp. 101-199	有
31	林尚之	メシアニズムと象徴天皇	単著	2020年	小路田泰直・田中希生『私の天皇論』			有
32	今西一	1950年代沖縄の「島ぐるみ闘争」—西里喜行とその時代(1)	単著	2019年12月	小樽商科大学『商学討究』70-1・2		pp. 33-64	有
33	今西一	(大会報告要旨)大相撲と女性のくケガレ	単著	2020年3月	総合女性史研究 33		pp. 98-100	有
34	赤澤史朗	特集「戦争体験論の射程」(特集にあたって)	単著	2019年	年報日本現代史 24			有
35	城下賢一	解題「高田浩運日記」1960年7月~12月	単著	2020年	大阪薬科大学紀要 14		pp. 201~210	無
36	城下賢一	翻刻「高田浩運日記」1960年7月~12月	共著	2020年	大阪薬科大学紀要 14	木多悠介、海野大地、田中将太、落合優翼、中村凌太郎、鹿島晶子	pp. 173~201	無
37	加國尚志	野生の知覚、なまの知覚——後期メルロ＝ポンティの「研究ノート」における知覚経験の位相	単著	2020年2月	立命館大学人文学会、『立命館文学』、第665号		pp. 48-58	無
38	谷徹	生・ロゴス・パトス	単著	2020年3月	公益財団法人日独文化研究所、『文明と哲学』、第12号		pp. 70-83	無
39	亀井大輔	デリダの〈経験〉論	単著	2020年2月	立命館大学人文学会、『立命館文学』、第665号		pp. 59-69	無
40	亀井大輔	〈歴史の思考〉をさらに進めるために——『デリダ 歴史の思考』補遺——	単著	2019年12月	立命館大学人文科学研究紀要、第120号		pp. 151-163	有
41	伊勢俊彦	謝罪と赦し、それで終わるものと後に残るもの あるいは償いと継続的コミットメント	単著	2020年2月	立命館大学人文学会、『立命館文学』、第665号		pp. 34-47	無
42	北尾宏之	カント『道徳形而上学の基礎づけ』の研究(四) — 第二章の研究(その二)	単著	2020年2月	立命館大学人文学会、『立命館文学』、第665号		pp. 23-33	無
43	林芳紀	ドーピングとエンハンスメント——トマス・マレーのエンハンスメント論——	単著	2020年3月	『法の理論』、第38号	長谷川晃・酒匂一郎・河見誠・中山竜一(編)	pp. 25-50	無
44	林芳紀	正義原理に基づいて行為する理由——ロールズ『正義論』第八章における道徳的動機づけの問題	単著	2020年2月	立命館大学人文学会、『立命館文学』、第665号		pp. 70-83	無
45	林芳紀	医学研究者の追加的ケアの責務とその射程の限定をめぐる論争	単著	2019年9月	日本生命倫理学会、『生命倫理』第29巻第1号		pp. 103-111	有
46	佐藤愛	ウジェーヌ・ミンコフスキーの tonalité——アンリ、ハイデガーを手がかりに	単著	2019年6月	日本ミシェル・アンリ哲学会、『ミシェル・アンリ研究』、第9号		pp. 1-24	有
47	酒井麻依子	メルロ＝ポンティにおける「前人格的実存」概念の深化:カーディナー解釈を手がかりに	単著	2019年9月	日仏哲学会、『フランス哲学・思想研究』、第24号		pp. 143-154	有
48	松田智裕	生の再現前化と悲劇の弁証法——デリダのアルト——	単著	2020年2月	立命館大学人文学会、『立命館文学』、第665号		pp. 265-277	無
49	松田智裕	アイノスは歴史的なのか——亀井大輔『デリダ 歴史の思考』について——	単著	2019年12月	立命館大学人文科学研究紀要、第120号		pp. 93-107	有

50	有村直輝	ホワイトヘッドにおける形而上学と論理学——1924-25年の資料にもとづく一考察——	単著	2019年12月	日本ホワイトヘッド・プロセス学会、『プロセス思想』、第19号		pp. 47-60	有
51	青柳雅文	個別と普遍をめぐる(非同一的なもの)の問題: アドルノの現象学研究を手がかりとして	単著	2020年3月	立命館大学人文科学研究所、『立命館大学人文科学研究所紀要』、第123号		pp. 145-172	有
52	青柳雅文	アドルノと他者経験論——現象学研究をつうじた他者概念の理解	単著	2019年8月	日本現象学・社会科学会、『現象学と社会科学』、第2号		pp. 47-61	有
53	小田切建太郎	動(詞)的観点から見た事実性の射程と限界	単著	2020年2月	立命館大学人文学会、『立命館文学』、第665号		pp. 224-238	無
54	小田切建太郎	ハイデガーとヘルダーリンの「宗教について」(「哲学書簡の断片」)	単著	2019年12月	立命館大学人文科学研究所、『立命館大学人文科学研究所紀要』、第120号		pp. 61-90	有
55	神田大輔	フッサール現象学における(意志の受け継ぎ)と動機づけについて	単著	2020年2月	立命館大学人文学会、『立命館文学』、第665号		pp. 175-188	無
56	鈴木崇志	対話のような想起:フッサールの記憶論の展開に関する一考察	単著	2020年2月	立命館大学人文学会、『立命館文学』、第665号		pp. 253-264	無
57	鈴木崇志	二人称的な他者に関するフッサールとシュッツの思想の比較	単著	2019年8月	日本現象学・社会科学会、『現象学と社会科学』、第2号		pp. 63-77	有
58	鈴木崇志	「基礎関係」の現象学の可能性:フッサールとレヴィナスの他者論の比較を手引きとして	単著	2019年6月	関西哲学会、『アルケー』、第27号		pp. 86-97	有
59	浅沼光樹	【シンポジウム提題】ドイツ観念論と思弁的実在論——シュリング再評価の文脈	単著	2019年7月	日本シュリング協会、『シュリング年報』、第27号		pp. 4-14	無
60	浅沼光樹	加速主義から思弁的実在論へ——ブラシエとグラント	単著	2019年5月	青土社、『現代思想』第47巻第8号		pp. 100-109	無
61	池田裕輔	事実性、超越論的現象学と形而上学の問題	単著	2020年2月	立命館大学人文学会、『立命館文学』、第665号		pp. 204-223	無
62	佐藤勇一	模擬裁判員裁判を用いた福井工業高等専門学校における主権者教育の試み	共著	2019年12月	福井工業高等専門学校、『福井工業高等専門学校研究紀要 人文・社会科学』、第53号	共著者: 川畑弥生	pp. 1-20 (pp. 1-2, 8-14, 17-18 担当)	有
63	遠藤英樹	トランスナショナル・ディズニー——モノが歩く世界	単著	2020年3月	立命館大学人文学会、『立命館文学』、666号		pp. 114-130	無
64	遠藤英樹	他者に寄り添い共生するゲームとしての「ダークツーリズム」——「ダークツーリズム」から「ポリフォニック・ツーリズム」へ	単著	2019年12月	立命館大学人文科学研究所、『立命館大学人文科学研究所紀要』、121号		pp. 5-32	無
65	藤巻正己	<観光のまなざし>が向けられる<ダークな記憶装置>としての日本統治期の建造物と旧「眷村」——台湾のツーリズムスケープ瞥見(1)	単著	2019年12月	立命館大学人文科学研究所、『立命館大学人文科学研究所紀要』、121号		pp. 33-75	無
66	藤巻正己	Tin Mining Activities and Sustainability of Mining-Based Cities in Peninsular Malaysia	共著	2019年11月	立命館地理学会、『立命館地理学』、31号	Tarmiji Masron, Hassan Naziri Khalid, Nur Faziera Yaakub, Siti Khatijah Zamharri	pp. 27-50	無

67	神田孝治	『Pokémon GO』のリアルワールドイベントと地域——2018年の横須賀市における事例に注目した考察	2020年3月	2020年3月	立命館大学人文学会、『立命館文学』、666号		pp. 131-147	無
68	山本理佳	旧軍港市転換法の運用実態に関する一考察	2020年3月	2020年3月	立命館大学人文学会、『立命館文学』、666号		pp. 215-229	無
69	麻生将	近代日本におけるキリスト教と国家神道	2020年3月	2020年3月	立命館大学人文学会、『立命館文学』、666号		pp. 163-181	無
70	加藤政洋	基地都市コザにおける歓楽街《八重島》の盛衰	2020年3月	2020年3月	立命館大学人文学会、『立命館文学』、666号		pp. 182-200	無
71	羽谷沙織	Carving out a Space for Alternative Voices through Performing Arts in Contemporary Cambodian Tourism: Transformation, Transgression and Cambodia's first gay classical dance company	単著	2019年12月	立命館大学人文科学研究所、『立命館大学人文科学研究所紀要』、121号		pp. 77-102	無
72	薬師寺浩之	第二次世界大戦の戦跡における日本人観光者のダークツーリズム経験——タイ・カンチャナブリの事例	単著	2019年12月	立命館大学人文科学研究所、『立命館大学人文科学研究所紀要』、121号		pp. 129-163	無
73	轟 博志	韓国の旧開港場に投影された「日本」——当時の都市計画と現代の観光計画の間で	単著	2019年12月	立命館大学人文科学研究所、『立命館大学人文科学研究所紀要』、121号		pp. 165-198	無
74	韓 準祐	Dark Tourism of an Ongoing Issue: A case study of the Jeju April 3rd Incident, Korea	共著	2019年12月	立命館大学人文科学研究所、『立命館大学人文科学研究所紀要』、121号	姜 侑競	pp. 165-198	無
75	加藤雅俊	「東アジア福祉国家論」から「東アジア発の福祉国家論」へ——福祉国家論の理論的刷新に向けて——	単著	2019年6月	立命館大学産業社会学会、『産業社会論集』、55巻1号		pp. 249-271	無
76	加藤雅俊	Social Problems and Welfare State Transformations in Japan: From the Point of Welfare State Theory	単著	2020年3月	立命館大学人文科学研究所、『立命館大学人文科学研究所紀要』、123号		pp. 75-109	無
77	加藤雅俊	On Theoretical Possibility of East Asian Welfare Regime : from the Point of Comparative Politics	単著	2020年3月	立命館大学人文科学研究所、『立命館大学人文科学研究所紀要』、123号		pp. 119-144	無
78	加藤雅俊	Socio-Economic Transformations and the Changing Patterns of Political Order: from the Perspective of Welfare State Theory	単著	2020年3月	横浜法学会、『横浜法学』、28巻3号		pp. 365-388	無
79	中谷義和	Contemporary World in Transition : Politico-Social Movements of Inclusion and Exclusion	単著	2020年3月	立命館大学人文科学研究所、『立命館大学人文科学研究所紀要』、123号		pp. 9-26	無
80	西口清勝	Summary Report of the 11th Inter-College Symposium on Changing World	単著	2020年3月	立命館大学人文科学研究所、『立命館大学人文科学研究所紀要』、123号		pp. 111-118	無
81	芳村弘道	古筆切の李善注本『文選』について	単著	2019年5月	『學林』第68号		pp. 1-25	無
82	萩原正樹	小泉盗泉と詞	単著	2019年11月	『學林』第69号		pp. 88-109	無
83	富嘉吟	官版『唐人選唐詩』底本考～兼ねて林家旧蔵の『唐人選唐詩』寫本に及ぶ	単著	2019年5月	『學林』第68号		pp. 58-83	有

84	富嘉吟	唐詩人蘇煥の生涯について ～兼ねて杜甫との交遊に及ぶ～	単著	2019年10月	『中唐文学会報』第26号、		pp. 26-43	有
85	富嘉吟	『苑詩類選』について	単著	2019年12月	『立命館文學』第664号		pp. 3-348	無
86	富嘉吟	『文苑英華』所據『白氏文集』 諸本考	単著	2019年12月	『文史』、中華書局、第129輯		pp. 8-118	有
87	靳春雨	『典雅詞』及び『燕喜詞』諸 本	単著	2019年12月	『立命館文学』第664号		pp. 289-306	無
88	田中京	高適の家系と開元年間にお ける事跡について	単著	2019年11月	『學林』第69号		pp. 1-31	有
89	田中京	杜甫と高適の制科受験に関 連する詩について 一奉贈の 排律の詩を中心に一	単著	2020年3月	杜甫研究年報 第4号			有
90	IZAWA, Tomomi	Tourism Development in Bali: The Impact of World Heritage Status	単著	2019年12月	Memoirs of Institute of Humanities, Human and Social Sciences, Ritsumeikan University, No.121		pp. 235-257	有
91	松下洸	新自由主義型グローバル化 と岐路に立つ民主主義(下) ——新自由主義の暴力的表 層と深層——	単著	2019年6月	『立命館国際研究』32号1号		pp. 115-144.	無
92	松下洸	『連帯経済』と重層的ガヴァ ナンス——新自由主義のオ ルタナティブを考える——	単著	2020年3月	『立命館国際研究』32号4号		pp. 353-375	無
93	中谷義和	国民国家の断層化	単著	2020年3月	『立命館法学』第387・388号		pp. 198-222.	無
94	川口由香	ロマン派音楽とヨーロッパ 社会：ナショナリズムの高 揚との関係を中心に	単著	2020年3月	『立命館大学人文科学研究 所紀要』123号		pp. 207-234.	有
95	五十嵐美華	国際刑事裁判所との関係に おけるアフリカ連合の動 向：行動システム理論から の国際機構の分析	単著	2020年3月	『立命館大学人文科学研究 所紀要』123号		pp. 269-295.	有
96	白戸圭一	日本企業のアフリカ・ビジネ ス：その課題と可能性	単著	2020年3月	国際貿易投資研究所『世界経済 評論3・4月号』64巻2号		pp. 71-80	無
97	本名純	インドネシア・ジョコウィ政 権にみる情動エンジニアリ ングの政治	単著	2020年3月	『ソーシャルメディア時代の 東南アジア政治』明石書店		pp. 21-38	無
98	粟谷佳司	表現において「サブ・カルチ ャー」とは何か：カルチャー の瓦解の中での遠藤ミチロ ウと吉本隆明	単著	2019年	『ユリイカ』第57巻第15号		pp. 262-267	無
99	江口友朗	アジア諸国での金銭的相互 援助を巡る制度論的試論：タ イ・インドネシア・韓国・カ ンボジアの実態から	単著	2020年	『経済科学』（名古屋大学大 学院経済学研究科）第67巻第3 号		pp. 1-12	無

100	櫻井純理	就労支援政策の意義と課題: 半「就労」の質をどう担保する のか?	単著	2019年	『社会政策』(社会政策学会) 第11巻第1号		pp. 26-39	有
101	長尾伸一	ecological modernisation, ecological welfare and ecological civilisation	単著	2019年	『中国社会科学院国際フォー ラム』, 参加者 web 掲載版		web 掲載	無
102	日暮雅夫	社会主義の理念の今日的再 構成——ホネット『社会主義 の理念』の分析	単著	2020年2月	『季報唯物論研究』第150号、 季報『唯物論研究』刊行会		pp. 40-47	無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	吉田武弘	貴衆両院関係の出発—議會制度導入過程 における二院制論の展開	2019年6月30日	大阪歴史学会2019年大会	
2	山口一樹	大川啓氏の研究業績について	2019年5月11日	日本史研究会近現代史部会共同研究報 告業績検討会、機関誌会館	
3	山口一樹	1920年代後半の宇垣一成と上原勇作の対 立に関する再考—福田雅太郎の処遇を題 材として—	2019年6月24日	近代日本思想史研究会、立命館大学	
4	宮下祥子	日高六郎の教育をめぐる思想と運動	2019年11月30日	現代日本思想史研究会、早稲田大学	
5	伊故海貴則	府藩県三治期における三河国諸藩間の「合 議」機構	2019年5月10日	近世史フォーラム5月例会、大阪市立北 区民センター	
6	伊故海貴則	明治0-4年の三河国諸藩の集会	2019年5月17日	近代日本思想史研究会、立命館大学	
7	伊故海貴則	府藩県三治制下における三河国諸藩の「合 議」—「公議」と「郡県」—	2019年5月26日	近現代史研究会6月例会、名古屋大学	
8	伊故海貴則	明治初年の『三河国十藩集会』と『公議』	2019年6月9日	明治維新史学会第49回大会、京都橘大 学	
9	伊故海貴則	維新期の地域における「議事」の試みと政 治意思決定の変容	2019年7月13日	第58回近世史サマーセミナー(分科会)、 国民宿舎良寛荘	
10	伊故海貴則	明治維新期の地域社会における「合議」の 転回—静岡県地方民会と地租改正—	2019年11月2日	第四回東アジア日本研究者協議会国際 学術大会(EACJS)、国立台湾大学	
11	十河和貴	文官総督下の植民地統治構造と「分化主 義」—台湾総督府評議會を中心として—	2019年6月29日	2019年度第2回立教大学経済史・経営史 ワークショップ、立教大学	
12	十河和貴	近代日本における政治秩序の研究—「合 議」と「意思決定」の歴史的展開—	2019年11月2日	東アジア日本研究者協議会第四回国際 学術大会、國立臺灣大學文學院日本研究 中心	伊故海貴則・袁甲幸 中心
13	十河和貴	田中義一内閣の産業立国主義と植民地統 治構想—拓務省設置過程を中心として—	2019年12月14日	立命館史学会第41回大会、立命館大学	
14	十河和貴	二大政党の植民地統治構想比較—拓務省 を中心として—	2019年12月20日	大阪歴史学会近代史部会例会、淀川区民 センター	
15	寺澤優	村鳴鼎之『歓楽の墓』にみる青年娼婦論者 の思想形成	2019年10月19日	BK21+プロジェクト: グローバル 社会の 葛藤と公共性の人文学と日本研究 国際 シンポジウム、広島大学	
16	眞杉侑里	公娼制度研究の現在と展望—娼婦運動と 前借金問題—	2019年10月19日	BK21+プロジェクト: グローバル 社会の 葛藤と公共性の人文学と日本研究 国際 シンポジウム、広島大学	
17	眞杉侑里	近代日本の売春と人身売買	2019年11月13日	立命館大学経済学会・立命館大学社会シ ステム研究所共催セミナー、立命館大学 BKC キャンパス	
18	猪原透	明治中期のナショナリズムと法学—牧 野英一—の思想形成	2019年11月13日	日本思想史学会2019年度大会、茨城大 学	
19	猪原透	明治・大正期の社会科学における事実と規 範—牧野英一—の法理学を中心に	2020年1月23日	大阪歴史科学協議会帝国主義研究部会、 大阪市立淀川区民センター	
20	丸山彩	遠州浜松周辺における唱歌教育の黎明期	2019年10月	日本音楽教育学会第50回大会、東京藝 術大学	
21	丸山彩	戦時下の唱歌普及の取り組みとその成果 —唱歌《日本のあしおと》を題材に—	2019年11月	東洋音楽学会第70回大会、京都市立芸 術大学	酒井健太郎

22	西田彰一	〈やまとばたらき〉から見えてくるもの— 「皇国精神実修」と「身体健康増進」の あいだ	2019年12月9日	歴史学会2019年度大会（大会報告）	
23	西田彰一	〈やまとばたらき〉から見えてくるもの— 「皇国精神実修」と「身体健康増進」の あいだ	2019年10月19日	歴史学会10月例会（大会準備報告）	
24	西田彰一	探究学習プログラムにおける学習者の論 証プロセスについての検討—学習成果の 質的分析を通じて	2019年9月22日	質的心理学会	蒲生諒太
25	西田彰一	古写真を利用したフィールドワーク型探 究学習プログラムの開発	2019年8月23日	2019年度地理教育学会大会、常盤大学	蒲生諒太
26	谷徹	人稱と文化 中国語訳「人稱與文化」	2019年10月	第二十四届 中国現象学会年会	
27	亀井大輔	「バベルの塔」を読む	2019年12月	ジャック・デリダ『ブシュケ—他なる ものの発明』、合評会、早稲田大学	
28	亀井大輔	Derrida's theory of "experience"	2019年9月	第6回日中哲学フォーラム、中華人民共 和国、中山大学哲学系	
29	亀井大輔	technè, phonè, alètheia: Voice and Phenomenon and Heidegger	2019年5月	Derrida et la technologie, France, Columbia Global Centres	
30	伊勢俊彦	歴史的不正義からの個人の尊厳の回復:韓 国の事例に則して	2020年2月	関西唯物論研究会	
31	伊勢俊彦	謝罪と赦し、それで終わるものと残される ものあるいは償いと継続的コミットメン ト	2019年10月	唯物論研究協会第42回研究大会、島根 大学	
32	伊勢俊彦	Apology, Repair, and Lasting Commitment	2019年9月	第6回日中哲学フォーラム、中華人民共 和国、中山大学哲学系	
33	伊勢俊彦	謝罪と赦し、それで終わるものと残される ものあるいは償いと継続的コミットメン ト	2019年6月	京都生命倫理研究会2019年6月例会、 京都女子大学	
34	伊勢俊彦	謝罪と赦し、被害の訴えを受け止める継続 的責任	2019年4月	応用哲学会第11回年次研究大会、京都 大学	
35	佐藤愛	川瀬雅也著『生の現象学とは何か—ミシ ェル・アンリと木村敏のクロスオーバー』 合評会	2019年6月	日本ミシエル・アンリ哲学会第11回研 究大会、学習院大学	
36	横田祐美子	終わりなき有限性 ———ジャン＝リュッ ク・ナンシーにおける他化の運動について	2020年3月	日本フランス語フランス文学会関東支 部大会、東京藝術大学 (コロナウィルス感染拡大の影響から 大会は開催中止となり、代替措置として 発表音声と配布予定だったレジュメの データファイルを提出した。)	
37	横田祐美子	「女性的に書く」とはいかなる身振りか— —イリガライの差異の哲学にもとづいて	2020年2月	立命館大学国際言語文化研究所、差別と 哲学思想研究会「異なる者」たちの共生 を目指して」、立命館大学	
38	横田祐美子	幽霊の倫理、決断の狂気 ———ジャック・ デリダから考える（反）出生の問題	2019年11月	『現代思想』11月号にまつわるシンポジ ウム「生まれてこないほうがいいなん て言っちゃいけないなんて言わないで なんて言っちゃダメですか!」、学習 院大学	
39	酒井麻依子	メルロ＝ポンティとフェノン：レイズム の身体論	2020年2月	立命館大学国際言語文化研究所、差別と 哲学思想研究会「異なる者」たちの共生 を目指して」、立命館大学	
40	酒井麻依子	ジェンダーの身体、その歴史性と創造性： メルロ＝ポンティとJ・バトラー	2019年12月	第5回「顔・身体学」領域会議「トラン スカルチャー状況下における顔身体学 の構築」、沖縄県市町村自治会館	
41	酒井麻依子	『第二の性』を読むメルロ＝ポンティ	2019年9月	日本メルロ＝ポンティ・サークル第25回 研究大会、成城大学	
42	酒井麻依子	Adult-Child Relationships Described by Merleau-Ponty and an Ethical Relationship with Others	2019年6月	The 4th Annual Conference of the East Asian Network for Phenomenology, South Korea, Ewha Womans University	
43	松田智裕	証言、和解、赦し———デリダの南アフリカ ———	2020年2月	立命館大学国際言語文化研究所、差別と 哲学思想研究会「異なる者」たちの共生 を目指して」、立命館大学	
44	松田智裕	時間の弁証法———フッサール『時間講義』 をめぐるピカールとデリダ———	2019年11月	日本現象学会第41回研究大会、岡山大 学	

45	松田智裕	遊戯と徴候学の交叉——1960年代デリダのニーチェ	2019年10月	脱構築研究会ワークショップ「ニーチェと戦後フランス思想、クロソウスキー、ドゥルーズ、デリダ」、早稲田大学	
46	有村直輝	Whitehead and Sheffer's incompatibility: An Investigation on the Relationship between Metaphysics and Logic	2019年8月	12th International Whitehead Conference, Brazil, University of Brazilia	
47	有村直輝	1924-25年のホワイトヘッドにおける形而上学と美学	2019年6月	アメリカ哲学フォーラム第6回大会、京都大学	
48	柳川耕平	フッサール中期時間論『ベルナウ草稿』における自我の二重的性格	2019年11月	日本現象学会第41回大会、岡山大学	
49	柳川耕平	初期フッサール時間論における時間位置の個体化について	2019年10月	関西哲学会第72回大会、同志社大学	
50	柳川耕平	The In-each-other of protention and retention in the Bernauer manuscripts	2019年6月	The 4th Annual Conference of the East Asian Network for Phenomenology, South Korea, Ewha Womans University	
51	柳川耕平	Das Ineinander von Protention und Retention in den Bernauer Manuskripten	2019年4月	Phänomenologische Werkstatt, Deutschland, Husserl Archiv der Universität zu Köln	
52	小田切建太郎	ハイデガーと他動詞性——ヘーゲル、シェリングとの近さと遠さから——	2019年5月	日本哲学会第78回大会、首都大学東京	
53	小田切建太郎	The more tender and more infinite relationship: On the mediation in Heidegger	2019年4月	17th annual Conference of the Nordic Society for Phenomenology, Denmark, University of Copenhagen	
54	鈴木崇志	Practical Intentionality in the Social World: A Husserlian Approach	2019年6月	The 4th Annual Conference of the East Asian Network for Phenomenology, South Korea, Ewha Womans University	
55	Michel Dalissier	尊属殺人	2019年11月	国際日本文化研究センター共同研究会「東アジアにおける哲学の生成と発展——間文化の視点から」(研究代表者: 廖欽彬)、国際日本文化研究センター	
56	Michel Dalissier	CONFUCIUS versus PARMENIDES? A Case Story in Comparative Philosophy	2019年9月	Department of Philosophy, Beijing Normal University, China	
57	Michel Dalissier	Πατραλοία: A Tragicomic Play in Five Acts in Comparative Philosophy	2019年9月	第6回中日哲学フォーラム、中華人民共和国、中山大學哲学系	
58	Michel Dalissier	Quelle peut-être notre attitude vis-à-vis des choses ?	2019年4月	Les frontières du vivant” (J.-C. GENS), France, université de Bourgogne, Dijon	
59	赤阪辰太郎	「前期サルトルの哲学研究——形而上学の問題を中心に」(博士論文合評会)	2019年12月	日本サルトル学会第44回研究例会、南山大学	
60	赤阪辰太郎	若手研究者の在外研究——ベルギー滞在の事例から	2019年11月	日本現象学会第41回研究大会、岡山大学	
61	浅沼光樹	後期シェリングの現象論——意味論的観念論の批判	2019年11月	日本フイヒテ協会第35回大会、上智大学	
62	池田裕輔	Fink und Kants Dialektik	2020年2月	Eugen Fink und die Klassische Deutsche Philosophie, Eine Auseinandersetzung im Spannungsfeld zwischen Transzendentalphilosophie, Phänomenologie und Metaphysik 1. Internationale Forschungstagung des Eugen-Fink-Zentrums Wuppertal (EFZW)	
63	川崎唯史	医学研究倫理における脆弱性の概念——争点の整理	2019年12月	日本生命倫理学会第31回年次大会、東北大学	大北全俊、佐藤静、松井健志
64	川崎唯史	オンライン研究倫理コンサルテーションの試行と評価	2019年12月	日本生命倫理学会第31回年次大会、東北大学	會澤久仁子、清水右郷、土井香、遠矢和希、松井健志
65	川崎唯史	文学作品を用いた現象学的倫理学の可能性	2019年11月	日本現象学会第41回研究大会、岡山大学	
66	川崎唯史	医学研究の倫理におけるヴァルネラビリティ	2019年10月	社会思想史学会第44回大会、甲南大学	
67	川崎唯史	メルロ=ポンティの実践哲学とボーヴォワール	2019年9月	日本メルロ=ポンティ・サークル第25回研究大会、成城大学	
68	佐藤勇一	哲学対話における対話の促しへの考察——メルロ=ポンティ・インゴルドとともに	2020年1月	ワークショップ、「対話の促し」、立命館大学	中川雅道

		—			
69	遠藤英樹	モビリティから都市研究をとらえかえす ——「モビリティ3.0」時代における「都 市研究の観光論的転回」	2019年7月	観光学術学会第8回大会、APU	
70	遠藤英樹	ダークツーリズム、ドラマトゥルギー、言 語ゲーム——ダークツーリズムからポリ フォニック・ツーリズムへ	2019年8月	人文観光研究会、立教大学	
71	遠藤英樹	ミュージック・ツーリズムにおける「情動 のライン」——リヴァプールの聖地巡礼を 主な事例として	2019年12月	日本ポピュラー音楽学会第31回全国大 会、大阪大学	
72	遠藤英樹	モバイル＝デジタル時代の観光——観光 を「脱構築」する研究へ	2020年2月	国立民族学博物館・研究課題「グローバ ル化時代における『観光化／脱・観光 化』のダイナミズムに関する研究」共同 研究会、国立民族学博物館	
73	遠藤英樹	Tourism in Mobile Digital Age: The Japanese Cases of Travelling Material Things	2020年2月	Keynote Speech at Critical Tourism Studies Asia-Pacific、Wakayama University	
74	藤巻正己	台湾のツーリズムスケープ瞥見——<観 光のまなざし>が向けられる<ダークな 記憶装置>としての日本統治期の建造物 と旧「眷(けん)村(そん)」	2020年3月	日本地理学会 2020年春季学術学会・台 湾研究グループ研究例会、駒澤大学	
75	神田孝治	The New Mobile Assemblages Caused by Pokémon GO	2020年2月	Critical Tourism Studies Asia- Pacific、Wakayama University	
76	Andrea De Antoni	Somewhere Between Heaven and Hell: The Management of Spirits, Imagination and Memories in Contemporary Osorezan	2020年1月	International Workshop "Skills of Feeling with the World - Fifth Workshop: Affective Technologies of Memory and Imagination"	
77	Andrea De Antoni	The End is the Beginning is the End: Healing from Spirit Possession Beyond Cognition in Contemporary Japan and Italy	2019年10月	Invited Lecture, Masaryk University, Department for the Study of Religions, Brno	
78	Andrea De Antoni	The Beginning is the End is the Beginning: Embodied Memories, Imagination and Ontogenesis in Spirit Possession and Healing in Contemporary Japan and Italy	2019年10月	Invited Lecture, University of Vienna, Institut für Kultur- und Sozialanthropologie	
79	Andrea De Antoni	Lo spettro vedemmo venire di lontano: Verso una comparazione dei sintomi di possessione spiritica in Giappone e in Italia contemporanei	2019年10月	Invited Lecture, University of Bologna, Department of History, Cultures, and Civilization	
80	Andrea De Antoni	Dei fantasmi ciascuno e' tremendo: Sentirsi guarire da possessione spiritica nel Giappone contemporaneo	2019年10月	Invited Lecture, University of Turin, Department of Cultures, Politics and Society	
81	Andrea De Antoni	Return of the Phantom Stranger: Doing Ethnography of Spirits in Contemporary Japan and Italy as a "Practice of Feeling with the World"	2019年10月	Invited Lecture, Ca' Foscari University of Venice, PhD Program in Asian and North African Studies	
82	Andrea De Antoni	Every Breath You Take, Every Move You Make: Feeling Haunting Multiplicities Beyond 'Belief' in Contemporary Japan	2019年9月	Invited Lecture, Aarhus University, School of Culture and Society, Department of Global Studies	
83	Andrea De Antoni	Blow up The Outside World: Comparing Experiences with Spirit Possession in Contemporary Japan and Italy Through Affective Correspondences and Embodied Memories	2019年9月	Invited Lecture, Aarhus University, School of Culture and Society, Anthropology Department	
84	Andrea De Antoni	This Could Be Heaven or This Could Be Hell Haunting Affordances, Affective Correspondences and the Managements of Spirits in Contemporary Japan	2019年8月	Royal Geographical Society Annual International Conference	
85	Andrea De Antoni	Living On The Edge: Towards a Comparison of Experiences with Spirit Possession in Contemporary Japan and Italy	2019年5月	Invited Lecture, University of Vienna	

86	羽谷沙織	Who serves as legitimate stewards of Khmer classical dance? Transgression, gender pluralism and non-formal education in diaspora	2019年6月	The 55th Japan Comparative Education Society	
87	羽谷沙織	国境を越えること、子どもたちと出会うこと：タイ＝カンボジア国境の現在	2019年6月	第55回日本比較教育学会 課題研究Ⅱ	
88	羽谷沙織	Carving out a gay space in Khmer classical dance: contrary to traditional art forms or trajectory of gender pluralism?	2019年8月	World Education Research Association 2019: Focal Meeting in Tokyo	
89	轟 博志	朝鮮王朝時代後期の「水経」体系復原について	2019年12月	日本地理学会 2019年 秋季学術大会	
90	轟 博志	朝鮮通信使の心象地理	2019年10月	ユネスコ世界の記憶遺産登録2周年記念シンポ「朝鮮通信使と福岡、時代を超えて！」	
91	轟 博志	Micro-scale estimation of Silla Trunk Roads	2019年11月	Channels, Territories, and Civilization Exchange: Past Realities and Present Meanings	
92	轟 博志	朝鮮時代における水経体系の特性	2019年12月	文化歴史地理学会 2019年 年次学術大会	
93	轟 博志	地籍原図を活用した新羅幹線駅路の推定	2020年3月	日本地理学会 2020年 春季学術大会	
94	四本幸夫	日本の世界農業遺産地域の自治体の観光を通じた農村振興：アンケート結果	2019年5月	第6回東アジア農業遺産学会（韓国 慶尚南道 河東郡）	
95	四本幸夫	Stories to sell products in tourism destinations of Globally Important Agricultural Heritage Systems	2019年11月	The 17th Asia Pacific Conference (Ritsumeikan Asia Pacific University, Beppu, Japan)	
96	山本理佳	旧軍施設の観光化—呉市・佐世保市の事例—	2019年6月	人文地理学会 第290回例会（特別例会）「軍都の歴史と地理」	
97	山本理佳	Changes to Tourism Space in Hiroshima Prefecture brought about by the establishment of the Yamato Museum	2020年2月	Critical Tourism Studies Asia-Pacific, Wakayama University	
98	加藤雅俊	福祉国家論における財政と政治—オーストラリアを手がかりとして—	2019年6月	日本比較政治学会研究大会、筑波大学	
99	加藤雅俊	The Japanese Welfare Model: From The Corporate Centered System to The Major Corporation Centered System	2019年7月	the 16th Annual Conference of the East Asian Social Policy Research Network、国立台湾大学（台湾）	鎮目真人、松田亮三
100	芳村弘道	董康晩清、辛亥革命時赴日訪書與學術交流的事跡	2019年4月	明清文人的世界—第五届古典文学国際学術研討會 台北 東呉大学	
101	萩原正樹	鷹取岳陽年譜補訂稿	2019年6月	明治大正期日韓文人詩詞交流研究」国際学術會議 立命館大学	
102	富嘉吟	官版『唐人選唐詩』底本考	2019年10月	第6回東亞漢籍交流国際学術會議 ソウル 高麗大学校	
103	靳春雨	立命館大学図書館西園寺文庫所蔵『詞綜』研究	2019年10月	第6回東亞漢籍交流国際学術會議 ソウル 高麗大学校	
104	田中京	杜甫と高適の制挙受験について	2019年9月	日本杜甫学会、兵庫県神戸市神戸研究学園都市 大学共同利用施設UNITY セミナー室4、	
105	田中京	大東急記念文庫蔵『高常侍集』残本および高適集の諸版本について	2019年10月	第6回東亞漢籍交流国際学術會議 ソウル 高麗大学校	
106	五十嵐美華	国際的な人権保障メカニズムをめぐるアフリカ連合と国際刑事裁判所の関係—行動システム論的視座からの考察—	2019年7月	自由民主政の体制原理研究会、2019年度第1回研究会、立命館大学衣笠キャンパス修学館	
107	川村仁子	グローバリゼーション論 思想からのアスペクト	2019年9月	『よくわかる グローバリゼーション論』研究会、キャンパスプラザ京都第1講習室	

108	五十嵐美華	地域機構による人権・人道システムの可能性と課題：アフリカ連合を事例に	2020年2月	立命館大学人文科学研究所 2019年度若手研究者研究支援プログラム「社会の変容と規範論研究会」、立命館東京キャンパス教室1	
109	井手上和代	ケニア・ナイロビにおける小規模零細事業主の資金調達	2019年5月	日本アフリカ学会	
110	栗谷佳司	戦後音楽文化史再考 フォーク、ロックミュージックのトポロジー	2019年12月	第31回日本ポピュラー音楽学会年次大会、大阪大学	馬場伸彦、平石貴士
111	長尾伸一	Asian Identities in the Global Enlightenment	2019年6月	15 th ISECS Congress, Edinburgh	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	第1回近代日本思想史研究会	衣笠キャンパス 学而館 第1研究会室	2019年5月	15名	
2	第2回近代日本思想史研究会	衣笠キャンパス 学而館 第2研究会室	2019年6月	15名	
3	第3回近代日本思想史研究会	衣笠キャンパス 学而館 第2研究会室	2019年9月	15名	
4	第4回近代日本思想史研究会	衣笠キャンパス 学而館 第2研究会室	2019年12月	15名	
5	ワークショップ「対話の促し」	衣笠キャンパス 平井嘉一郎記念図書館 カンファレンスルーム	2020年1月	20名	
6	荒川修作+マドリン・ギンズの現在 哲学と創造性	衣笠キャンパス 平井嘉一郎記念図書館 カンファレンスルーム	2019年11月	30名	
7	マウロ・カルポーネ教授講演会	衣笠キャンパス 末川記念会館第三会議室	2019年5月	20名	
8	松山壽一先生学術記念講演会	衣笠キャンパス 平井嘉一郎記念図書館 カンファレンスルーム	2019年5月	20名	
9	マレーシア・オン・ツアー	衣笠キャンパス	2019年7月	50名	JSPS 科研費 基盤研究 (C) 17K02142 「アジアにおける平和の記憶を紡ぐメディアとしてのダークツーリズム」 (研究代表者：遠藤英樹)
10	移動論的パラダイムの新地平	衣笠キャンパス	2020年2月	100名	JSPS 科研費 基盤研究 (C) 17K02142 「アジアにおける平和の記憶を紡ぐメディアとしてのダークツーリズム」 (研究代表者：遠藤英樹)
11	研究会「グローバル化のなかのアジア」	衣笠キャンパス	2019年11月	20名	
12	「明治大正期日中韓文人詩詞交流研究」国際学術会議	衣笠キャンパス	2019年6月	20名	
13	立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所2019年度第2プロジェクト日中韓漢籍研究 研究成果報告会	衣笠キャンパス	2020年2月	30名	
14	自由民主政の体制原理研究会、2019年度第1回研究会	立命館大学衣笠キャンパス 修学館	2019年7月	5名	
15	自由民主政の体制原理研究会、2019年度第2回研究会	キャンパスプラザ京都 第1講習室	2020年1月	11名	越境暴力研究会
16	受刑者の更生支援活動の現状と課題	衣笠キャンパス 学而館 2階 研究会室 2	2020年1月	10名	
17	刑務所等矯正施設からの退所者の現状と課題を考える	大阪いばらきキャンパス B棟 B516	2020年2月	8名	

18	社会の変容と規範論	東京キャンパス 教室1	2020年2月	6名	
----	-----------	-------------	---------	----	--

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）					
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間	
1	猪原透	(新刊紹介) 岩井忠熊、広岩近広『象徴でなかった天皇』	新聞『京都民法』	2019年5月26日	
2	林尚之	(書評) 喜戸一将『主権論史—ローマ法再発見から近代日本へ』岩波書店、2019年	『公明新聞』	2020年1月13日	
3	谷徹	『現象学』、新田義弘著	河合塾、『わたしが選んだこの一冊』(2019)、p. 27	2019年6月	
4	亀井大輔	【書評】岩野卓司著『贈与論 資本主義を突き抜けるための哲学』	図書新聞、3436号	2020年2月	
5	佐藤愛	【書評】兼本浩祐著『なぜ私は一統きの私であるのか—バルクソン・ドゥルーズ・精神病理』	図書新聞、3395号	2019年4月	
6	横田祐美子	【論考】フェミニズムは哲学の遺産をどのように継承するのか—脱構築と女性的なものをめぐる思考	青土社、『現代思想』、3月臨時増刊号(第48巻第4号)、pp. 257-263	2020年2月	
7	横田祐美子	【書評】石川優実著『#KuToo—靴から考える本気のフェミニズム』(現代書館)	図書新聞、3434号	2020年2月	
8	横田祐美子	【論考】私が「男尊女卑・家父長制」を退けた「結婚式」を挙げた理由—結婚式のデモクラシー/脱構築の実践	講談社、『現代ビジネス』 https://gendai.ismedia.jp/articles/-/69042	2019年12月	
9	横田祐美子	【新刊紹介】酒井健『パタイユと芸術 アルテラシオンの思想』	表象文化論学会ニューズレター、REPRE, vol. 37	2019年10月	
10	横田祐美子	【研究手帖】結婚式のデモクラシー	青土社、『現代思想』、2019年6月号(第47巻第8号)、p. 246	2019年6月	
11	横田祐美子	【書評】ランシエールの思想を貫く「知性の平等」について論じる—「哲学者」と「その貧者たち」の分断・疎外の歴史を明らかに(ジャック・ランシエール著、松葉祥一・上尾真道・澤田哲生・箱田徹訳『哲学者とその貧者たち』、航思社)	図書新聞、3396号	2019年4月	
12	鈴木崇志	間主観性とは何か：フッサール研究者の視点から	「身体と言語」研究会特別企画 (https://bodyandlanguage.jimdofree.com/activity20190924/)	2019年9月	
13	赤阪辰太郎	【書評】『サルトルのプリズム 二十世紀フランス文学・思想論』	週刊読書人、第3331号	2020年3月	
14	浅沼光樹	ポスト・トゥルースを突き抜ける新しい哲学の挑戦—マルクス・ガブリエルと新しい実在論	講談社、『現代ビジネス』 https://gendai.ismedia.jp/articles/-/65126	2019年6月	
15	浅沼光樹	新しい実在論	青土社、『現代思想』臨時増刊号(第47巻第6号)『現代思想43のキーワード』、pp. 33-37	2019年4月	
16	川崎唯史	家族におけるケアと依存(男女共同参画・若手支援ワークショップ報告)	日本現象学会、『現象学年報』第35号、pp. 23-29	2019年11月	
17	川崎唯史	医学研究の倫理とレヴィナス—ヴァルネラビリティ概念の起源?	レヴィナス協会、『レヴィナス研究』第1号、pp. 77-88	2019年9月	
18	川崎唯史	【書評】加國尚志『沈黙の詩法—メルロ=ポンティと表現の哲学—』晃洋書房、二〇一七年	関西倫理学会、『倫理学研究』第49号、pp. 126-130	2019年6月	
19	佐藤勇一	福井高専でSDGs関連の特別授業	『文教速報』、第8803号、p. 19	2020年2月	
20	佐藤勇一	高専カフェ「メルロ=ポンティ思想紹介—哲学と絵画・対話—」	福井工業高等専門学校地域連携テクノセンター主催、於：福井工業高等専門学校コミュニティールーム	2020年1月	
21	佐藤勇一	哲学対話を用いた新入生情報倫理教育(2019年度) 明石工業高等専門学校、座談会参加	明石工業高等専門学校	2019年7月	
22	遠藤英樹	(書評) 多様で異質な文化が混濁する「社会の“現在”形」を見据えるために	週刊読書人	2019年9月	
23	芳村弘道	長恩書屋蔵本展観	衣笠キャンパス 末川会館	2020年2月26日	
24	川村仁子	オリンピック・パラリンピックを支えるグローバル・スポーツ法	立命館大学土曜講座	2019年12月14日	
25	佐藤誠	小倉充夫・船田クラークンさやか著『解放と暴力—植民地支配とアフリカの現在—』書評	『アジア経済』Vol. 60 No. 4, アジア経済研究所	2019年12月	

26	川村仁子	ワークショップ「社会の変容と規範論」司会	立命館大学人文研 2019 年度若手研究者研究支援プログラム「社会の変容と規範論研究会」、立命館東京キャンパス教室 1	2020 年 2 月
27	松下冽	ラテンアメリカの現況をどう見るか——大陸規模で深まる政治的危機と右派の攻撃に抗して	現代の理論』22 号、2020 春号	2020 年 3 月
28	白戸圭一	「朝日新聞 Globe +」への連載	朝日新聞 Globe +	2019 年 4 月-2020 年 3 月 (計 11 回)
29	本名純	兵器化される情動反応——2019 年インドネシア大統領選挙にみる選挙テクノロジーの影	Synodos	2019 年 6 月 6 日

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	酒井麻依子	新学術領域研究「トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築」	若手優秀発表賞優秀賞	ジェンダーの身体、その歴史性と創造性；メルロ＝ポンティと J・バトラ	2019 年 12 月
2	鈴木崇志	関西哲学会	研究奨励賞	「基礎関係」の現象学の可能性 ——フッサールとレヴィナスの他者論の比較を手引きとして	2019 年 10 月
3	黒岡佳柁	福州大学外国語学院	学生教育奨励金		2019 年 12 月
4	黒岡佳柁	日本僑報社	優秀指導教師賞		2019 年 12 月
5	遠藤英樹・神田孝治	観光学術学会	観光学術学会企画賞		2019 年 7 月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	奈良勝司	幕末維新期における「公議」の研究	基盤研究 (C)	2017 年 4 月	2019 年 3 月	代表
2	小関素明	終戦工作と戦後民主主義	基盤研究 (C)	2019 年 9 月	2021 年 3 月	代表
3	吉田武弘	大正期における政党政治構想の競合と貴衆両院関係の再編	基盤研究 (C)	2019 年 9 月	2021 年 3 月	代表
4	加國尚志	メルロ＝ポンティの未刊草稿の研究	基盤研究 (B)	2019 年 4 月	2022 年 3 月	分担
5	加國尚志	加藤周一を軸とした戦後日本思想の検証	基盤研究 (B)	2017 年 4 月	2020 年 3 月	分担
6	青柳雅文	アドルノの亡命期間における現象学研究の解明	基盤研究 (C)	2017 年 4 月	2020 年 3 月	代表
7	小林琢自	尾高朝雄の“現象学的”国家論における「全体」概念について	基盤研究 (C)	2017 年 4 月	2020 年 3 月	代表
8	佐藤愛	ウジェーヌ・ミンコフスキーの同調性概念の研究	若手研究 (B)	2017 年 4 月	2020 年 3 月	代表
9	松田智裕	ジャック・デリダを中心とした戦後フランスの哲学教師論の展開に関する研究	研究活動スタート支援	2019 年 9 月	2021 年 3 月	代表
10	小田切建太郎	シェリング及び現象学におけるその継承と展開に関する研究	若手研究 (B)	2019 年 4 月	2023 年 3 月	代表
11	鈴木崇志	現象学の見地からの「共同体」概念の研究	研究活動スタート支援	2019 年 9 月	2021 年 3 月	代表
12	川崎唯史	子育ての現象学：フィンランド・ネウボラをフィールドに	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化 (B)）	2019 年 10 月	2022 年 3 月	分担
13	川崎唯史	弱者を対象とする医学系研究に求められる倫理的配慮に関する研究	基盤研究 (C)	2018 年 4 月	2021 年 3 月	代表
14	遠藤英樹	アジアにおける平和の記憶を紡ぐメディアとしてのダークツーリズム	基盤研究 (C)	2017 年 4 月	2020 年 3 月	代表
15	神田孝治	現代社会におけるツーリズム・モビリティの新展開と地域	基盤研究 (B)	2017 年 4 月	2020 年 3 月	代表
16	轟博志	朝鮮時代の国土地理認識における「水経」の基礎的研究	基盤研究 (C)	2019 年 4 月	2022 年 3 月	代表

17	四本幸夫	日本の世界農業遺産（GIAHS）地域の観光を通じた農村振興に関する比較研究	基盤研究(B)	2017年4月	2020年3月	代表
18	薬師寺浩之	開発途上国における観光者の問題視される行動に関する研究	若手研究	2019年4月	2022年3月	代表
19	加藤政洋	戦後沖縄の〈基地経済〉と都市の空間編成に関する地理学的研究	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	代表
20	加藤雅俊	批判的実在論に基づく現代国家の変容に関する総合的研究——社会統合の変遷に注目して	若手研究(B)	2017年4月	2020年3月	代表
21	日暮雅夫	批判的社会理論からのネオリベリズム批判	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	代表
22	芳村弘道	「朝鮮渡り唐本」の総合的研究	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
23	富嘉吟	松崎慊堂の漢籍享受と漢籍出版に関する研究	若手研究	2019年4月	2021年3月	代表
24	白戸圭一	対アフリカ外交の誕生・発展とその変容-証言で辿る冷戦後日本外交の軌跡	研究活動スタート支援	2018年10月	2020年3月	代表
25	栗谷佳司	1960年代後半の日本における表現文化と市民運動の交差に関する文化論的研究	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	代表
26	江口友朗	人的ネットワークの経済効果を組み込んだ所得再分配構造のモデル化：タイを中心に	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
27	櫻井純理	福祉・労働を架橋する政策のガバナンスに関する国際比較研究—北欧と日本の地域政策	基盤研究(B)	2018年4月	2022年3月	代表
28	日暮雅夫	批判的社会理論からのネオリベリズム批判	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	代表
29	長尾伸一	モダニティとニュートン主義：複数世界・知の科学化・ソーシャリティ・文明の再構築	基盤研究(C)	2017年4月	2021年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)

No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	吉水希枝	大正期日本における社格昇格運動の地域社会史的影響に関する研究	高梨学術奨励基金	2019年4月	2020年3月	代表
2	酒井麻依子 横田祐美子 松田智裕	「異なる者」たちの共生を目指して：差別をめぐる二十世紀フランス思想史の研究	立命館大学 立命館大学国際言語文化研究所萌芽的プロジェクト研究助成プログラム	2019年6月	2020年2月	代表(酒井) 分担(横田・松田)
3	横田祐美子	博士論文「脱ぎ去りの思考——ジョルジュ・パタイユにおける思考のエロティシズム」の出版助成	2018年度秋学期立命館大学大学院博士課程後期課程 博士論文出版助成制度	2019年3月	2020年3月	代表
4	松田智裕	博士論文「弁証法、戦争、遊戯——前期デリダ思想の生成と展開について——」の出版助成	2018年度秋学期立命館大学大学院博士課程後期課程 博士論文出版助成制度	2019年3月	2020年3月	代表
5	加藤雅俊	大規模環境紛争の処理に向けたローカル知の蓄積および活用に関する実践的研究——諫早湾干拓紛争を事例として	日本生命財団	2019年4月	2021年3月	代表
6	加藤雅俊	環境紛争の長期化が人々の行動および認識に与える影響に関する総合的研究—諫早湾干拓紛争を事例として—	カシオ科学振興財団	2019年4月	2021年3月	代表

9. 知的財産権

No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
1	立命太郎	特許(国内)	本人単独	筆頭発明者	****	****	****	日本